

防災・防犯情報を街中に伝える!
街かど安心安全ラジオリオ

防災・防犯ラジオ付き自動販売機

飲む防災[®] 飲む防犯[®]

地域の災害に関する緊急情報や、防犯に関するお知らせが自動的に放送されます。

防災情報

地震や津波などの緊急情報をお知らせする他、行政からの避難所情報、物資情報など災害発生後から復旧までの細やかな情報を放送します。



火事・事故・事件



消防署からの火災情報、警察からの重大事故、事件なども放送。

公共交通機関の運行状況

大きな災害時に電車バスなどの運行情報を放送することで、帰宅困難者を誘導することができます。



防犯・不審者情報

防災だけでなく、防犯に関するお知らせを街かどに放送します。例えば、不審者目撃情報を放送することで、街行く人へ注意を促すとともに、犯人に対して抑止力にも繋がります。



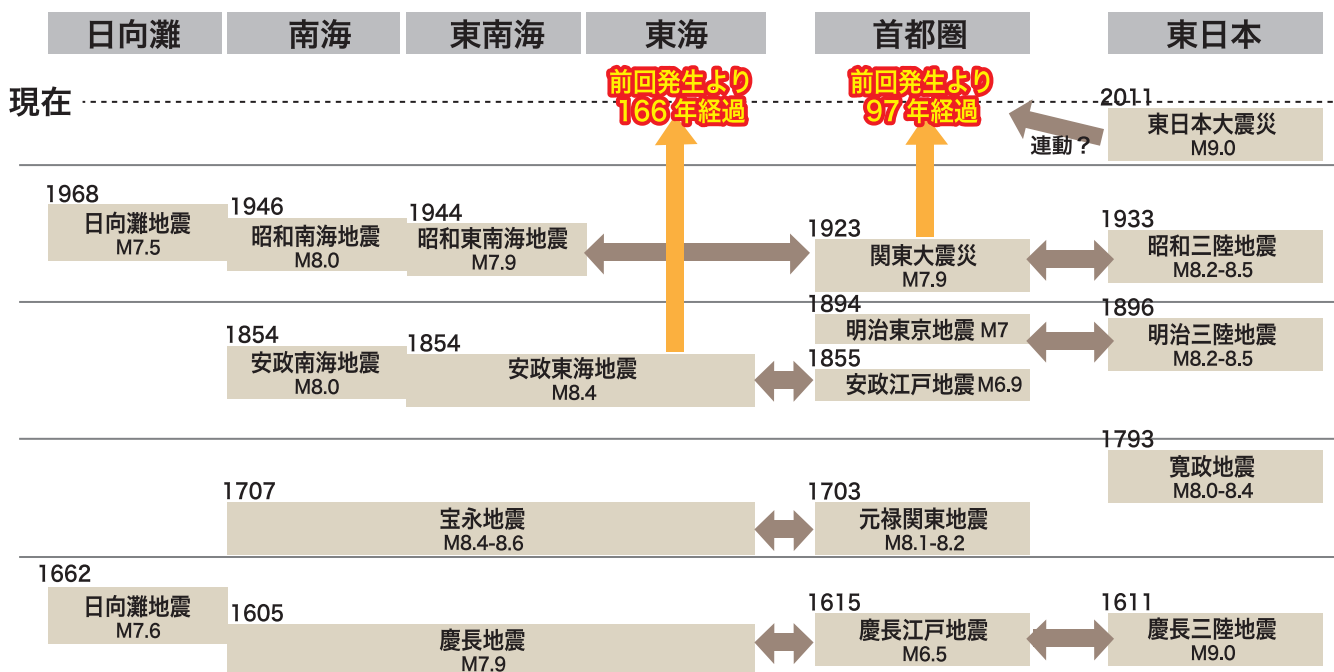
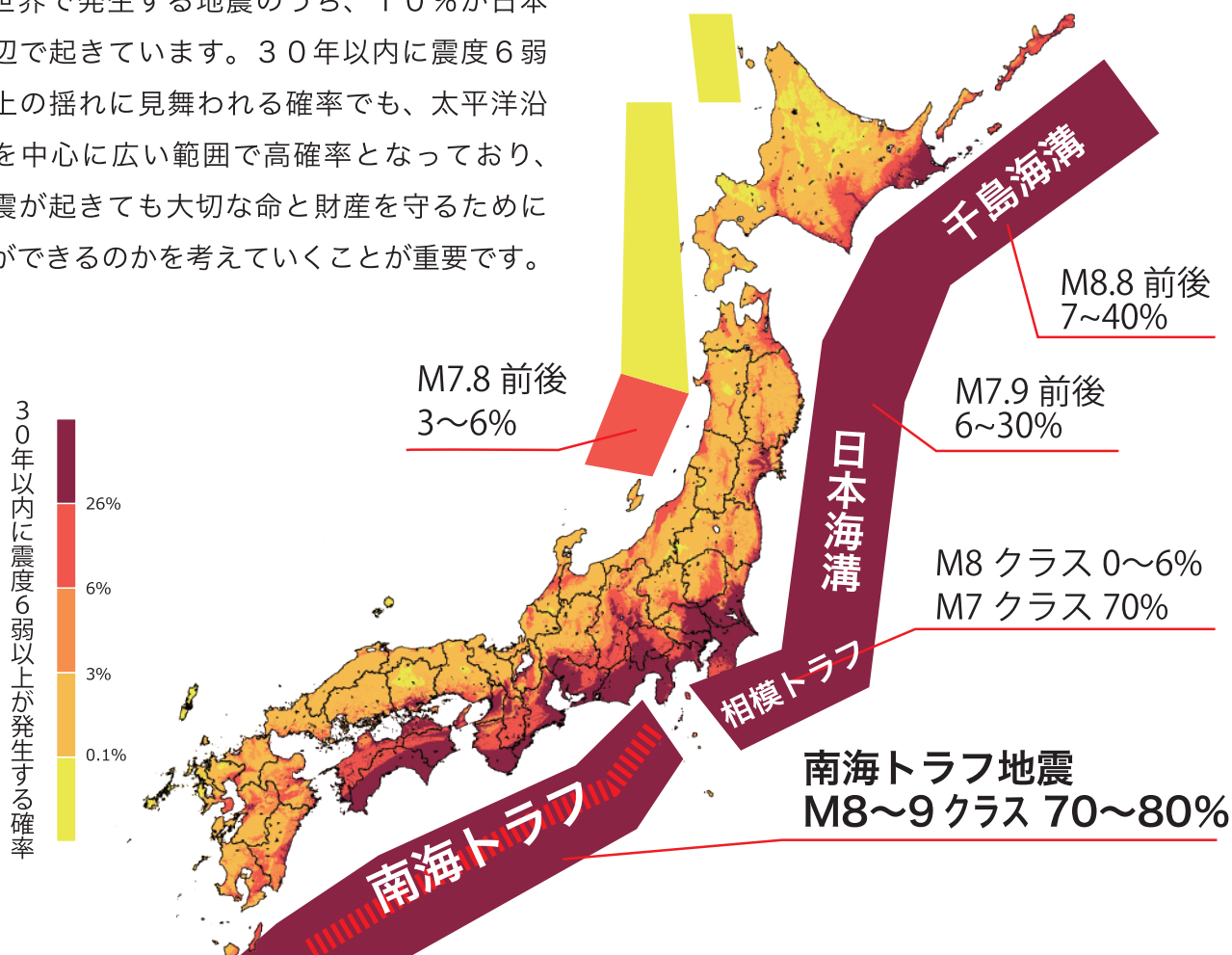
お年寄りや子どもの行方不明情報

認知症による行方不明者は、見つかるまでの時間が生死の分かれ目です。近隣の人に不明者の情報を伝え、早期発見に繋がります。



災害の多い日本

世界で発生する地震のうち、10%が日本周辺で起きています。30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率でも、太平洋沿岸を中心に広い範囲で高確率となっており、地震が起きても大切な命と財産を守るために何ができるのかを考えていくことが重要です。

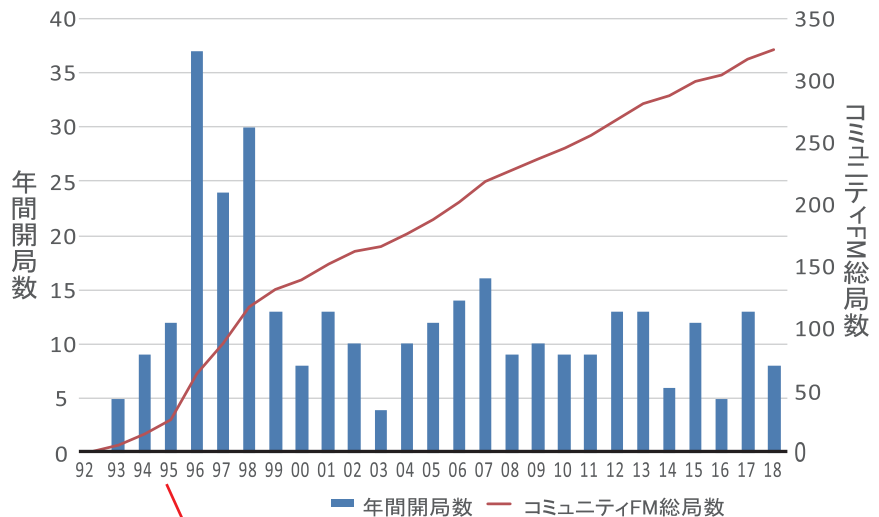


↔ 連動と考えられている地震

市民の命を守るコミュニティ FM

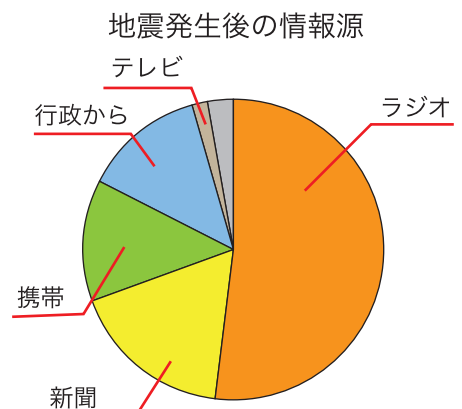
阪神淡路大震災の際、壊滅的な被害の地域で市民への避難所や物資情報を伝えることができたのは、唯一コミュニティFMだけでした。それ以降、コミュニティFMが防災情報の伝達に重要であるとの認識が高まり、国内で開局の動きが相次ぎました。2019年12月現在332局にも上り、総務省の指導のもと、毎月のように全国で開局しています。

コミュニティFMは放送エリアを「市域」に限っているからこそ、**県域放送**やNHK放送には真似のできない、**きめ細やかな放送が可能**です。



阪神淡路大震災（1995年）

実際に東日本大震災では、災害発生直後に利用したメディアとしては、ラジオが68%と最も高く、また発生後1週間で見ると、ラジオは76%へと上昇しています。地震後に大規模な停電やネットワーク障害が発生すると、乾電池でも動作し、また自動車には100%搭載されている「**ラジオ**」が**唯一の情報手段**となり、コミュニティFMは市民の命綱となります。また近年の異常気象による豪雨や大型台風などでも、他の媒体に比べてとても的確に地域密着の情報を伝えるメディアだと言えます。



※東日本大震災、宮城県沿岸部におけるアンケート調査

	アクセス性	地域性	災害時の信頼性
テレビ	○ 普及率は高く、一部乗用車にも設置されている。	✕ 広域の情報が多く、きめ細やかな放送は不可能。	✕ 停電時には使えない。地震で破損するケースも多。
ラジオ（県域放送）	◎ 非常持ち出し品にも常備。自動車には、ほぼ全て装備。	✕ 広域の情報が多く、きめ細やかな放送は不可能。	◎ 乾電池で使用でき、携帯も可能。
ラジオ（コミュニティFM）	◎ 非常持ち出し品にも常備。自動車には、ほぼ全て装備。	◎ 地域に密着した細やかな情報が放送可能。	◎ 乾電池で使用でき、携帯も可能。
インターネット	✕ ネット回線とパソコンなどの端末が必要。	○ SNSなどで地域情報が入手できるが、デマの心配も。	✕ 大災害時には、つながらない場合が多い。
携帯・スマートフォン	△ スマホの普及率は急速に高まっている。	○ SNSなどで地域情報が入手できるが、デマの心配も。	△ 混雑（輻輳）してつながらない。充電の問題もあり。

飲む防災、飲む防犯事業の特徴

街中において普段から電源に接続されている「自動販売機」に防災ラジオを取り付け、コミュニティFMが放送する各種お知らせ情報を街中に流すことができる仕組みが、**街かど安心安全ラジオ事業「飲む防災、飲む防犯」**です。

	防災スピーカー	ラジオ受信機	飲む防災® 飲む防犯®
大規模災害時の緊急放送	◎	○	◎ 内蔵電池により約2日間放送可能
防犯のお知らせ	—	○	◎ 犯罪の起きやすい街角に直接放送
犯罪抑止力	—	△	◎ 不審者情報が放送されると抑止力
暴風時の聴取性	×	◎	◎ ビルのロビーや駅構内などで放送
設置コスト	×	△	◎ すべて民間のためコストはゼロ

停電に強い

バッテリーを内蔵しており、停電が発生しても**約2日間**、情報を伝達可能。中間のケーブルや中継器を必要としないラジオだからこそ、災害時に効果を発揮します。



広い範囲…半径100m

自販機を設置した場所の半径約100メートルの範囲に音声を伝えることができます。(ボリューム最大時)



ボリューム機能

設置箇所に応じて音量を調整可能です。屋外、屋内どちらにも設置可能で、病院の待合室や企業のロビーなど普段人が多く集まる場所に設置が効果的です。



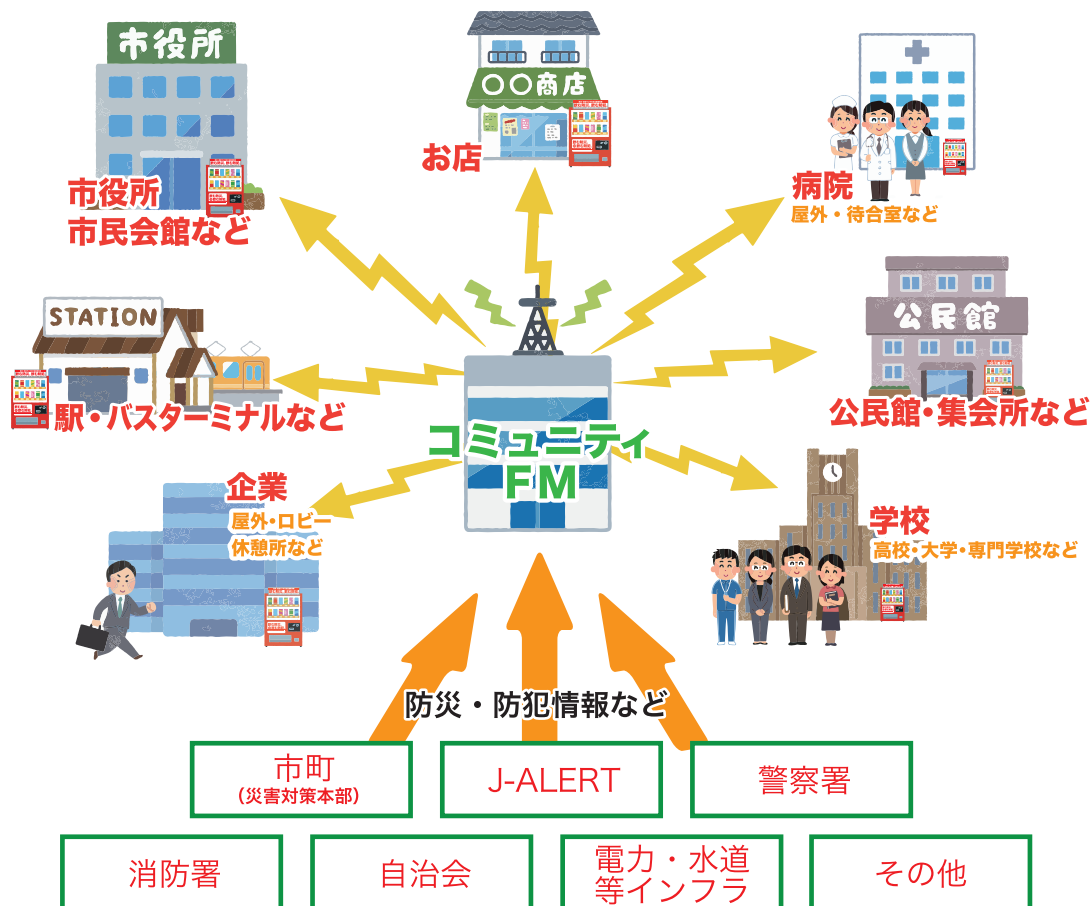
費用負担ゼロ

自動販売機の設置、管理、運営、取り付ける防災ラジオ受信機はすべてベンダー会社が負担します。また取扱ドリンクも各種揃えており、設置場所に応じて選ぶことが可能です。



設置イメージ

屋内外問わず、人が多く集まる場所に設置することで、市民へ重要な情報を伝達することに役立ちます。



動作イメージを動画でご覧頂けます。
スマホで下のQRコードを読み込んで
アクセスしてください。



インバウンド対応

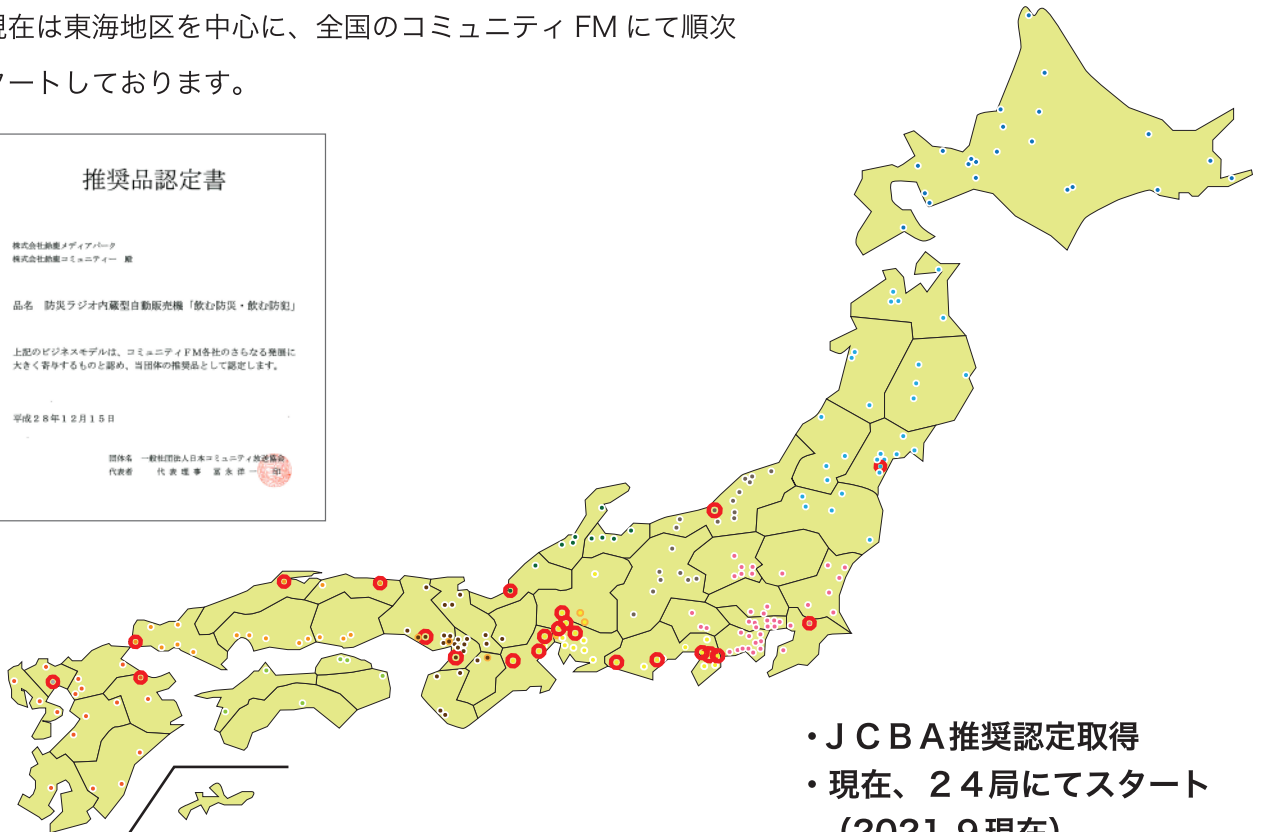
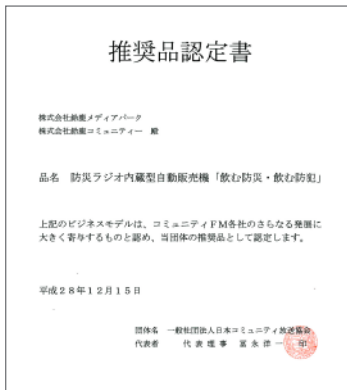
2020年の東京オリンピック開催に向けて、急増するインバウンドへの対策にも有効です。15年に国が発表した「緊急地震速報の多言語表現辞典」や、16年の「情報難民ゼロプロジェクト」等でも言われている、非常時の外国人への情報伝達手段としての活用も期待できます。



全国にてスタート

この飲む防災・飲む防犯事業は、日本コミュニティ放送協会（J C B A）の推奨認定も取得しています。今まで伝えきれなかった街角へのお知らせ放送により、各C F Mが地域の安心安全に大きく寄与できます。地域の細やかな情報を放送するというC F Mが持つ力を、最大限に発揮して地域の安心安全のために役立つことができます。

現在は東海地区を中心に、全国のコミュニティFMにて順次スタートしております。



- J C B A 推奨認定取得
- 現在、24局にてスタート (2021.9現在)

全システムに対応可能

すでに防災ラジオが導入されている局であっても、すべての防災ラジオシステムに対応可能です。

- D T M F 方式の受信機導入済み
- C o m f i s 型も導入予定

⇒ 全てのシステムに対応可能



メディアトライ製



リズム時計工業製



C o m f i s 型

運用の流れ





柏葉あじさい
無所属 奥山勢津子
(津市高茶屋)

三重総局(〒514-0005)
津市鳥居町227-2
059(228)2121~4
FAX 059(225)6213
四日市支局 059(352)3108
FAX 059(353)7239
伊勢支局 0596(23)3511
FAX 0596(23)3521
松阪支局 0598(21)6148
FAX 0598(26)2207
伊賀支局 0595(21)3241
FAX 0595(24)4310
尾鷲支局 0597(22)0192
FAX 0597(23)0771
鈴鹿通信部 059(382)0314
FAX 059(382)3999
桑名通信部 0594(22)0235
FAX 0594(23)6771
鳥羽通信部 0599(25)2063
FAX 0599(25)2090
熊野通信部 0597(85)2263
FAX 0597(85)4801
亀山通信部 0585(82)0189
FAX 0585(82)0970
名張通信部 0585(63)0541
FAX 0585(64)0146
菟野通信部 059(393)4158
FAX 059(394)5064
志摩通信部 0589(43)0154
FAX 0589(44)0028
紀伊長島通信部 0587(47)0724
FAX 0587(47)1487
新宮支局 0735(21)3737
FAX 0735(21)3738

新春センター
052(221)0800
広告のお申し込みは
広告局三重アドセンターへ
津 059(221)2530

平安会館
0120-999-444
6/25(日) 10:00~14:00
館川青基 西園日豊会

ラジオでいのちを守る

鈴鹿市のコミュニティFMラジオ局「鈴鹿ヴォイスFM」が、災害時や防犯に役立つ情報を発信するラジオ付き飲料自動販売機を開発し、設置拡大の取り組みを本格化した。飲料販売と同時に、安心・安全につながる放送をする。社会貢献を兼ねた新たなビジネスモデル。全国のコミュニティ局から問い合わせが相次ぐ。開発の経緯や展望を、同局を運営する「鈴鹿メディアパーク」の加藤正彦社長(仮名)に聞いた。

― 自販機の特徴と利点は？

自販機上部に各局の放送を受信するラジオを備えた。災害時の物資や交通機関、道路の状況をはじめ、不審者やひったくりへの注意喚起、行方不明者捜索の協力依頼など、役所や警察、消防からの情報を発信する。飲料の売上金の一部がメーカーから各局に支払われ、自販機設置者には手数料が入る。

― 一二月下旬の発表から四カ月経過。手応えは？

東海地区の九局を含む全国のコミュニティ局十一局の賛同を得て設置拡大を図っている。毎日のように時放送で自治体と連携し、問い合わせがあり、北海道ラジオ普及にも努める。ラ



街の自販機から緊急時放送



鈴鹿ヴォイスFM運営会社社長 加藤 正彦さん(57)

から沖繩まで各局の代表者が集まる協議会などに当社担当者が向き説明などPRをする。街角で緊急情報を届けるツールへの理解と、災害に強い地域づくりへの関心の高さを感じ、やりがいは大きい。

― なぜ自販機に着目した？

緊急時に屋外で情報を受け取る手段は、自治体の防災行政無線のスピーカーがよくなる。災害発生時に、導入場所の選定を進めたい。

― 全国に呼び掛ける意味はあるか？

放送区域が狭いコミュニティ局は全国に三百ほどあるが、広告収入は限られる。地域の安心・安全をサポートする役割を担う新たなビジネスモデルとして全国の各局へ働き掛けを強める。三年後に東京五輪・パラリンピックを控える。設置が広がる、世界でも治安が良いとされる日本のイメージアップに貢献できればいい。

かとう・まひこ(1960年生まれ。不動産業などを営む傍ら、2015年から「鈴鹿メディアパーク」代表取締役社長。全国のコミュニティ局で組織する「日本コミュニティ放送協会」の東海地区監事も務める。)



NHKおはよう日本



日テレ系列(宮城テレビ・BS日テレ)



防犯・防災情報 街の自販機発信

FM鳥取 ラジオ付き3カ所

鳥取市を中心に地域情報を発信しているコミュニティFM局「FM鳥取」が、防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を始めた。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。

防災・防犯ラジオ付き自動販売機は2017年12月、三重県鈴鹿市ラジオ局「鈴鹿ヴォイスFM」が全国で初めて開始した。現在、FM鳥取をめ、全国11府県18局で導入している。

見た目は従来の自動販売機と変わらないが、FM鳥取から特定の信号を発信する。内蔵したスピーカーが自動的に音声を流し、緊急時の防災・防犯情報を発信する。不審者やひったくり、災害時の注意喚起など、役所や警察、消防からの情報を発信する。飲料の売上金の一部がメーカーから各局に支払われ、自販機設置者には手数料が入る。

「危険!」自販機が発信
鈴鹿 地元FM提携 防災ラジオ機能

「危険!」自販機が発信。鈴鹿 地元FM提携 防災ラジオ機能。防災・防犯ラジオ付き自動販売機の運用を始めた。県内では初めての取り組み。自販機を活用して、地域の安全・安心に役立てたいという。